

運動系の習い事が幼児の身体機能に与える影響に関する研究

三宅 公起 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 佐藤 馨

キーワード：幼児 運動機能 習い事

1. 諸言

現代の幼児は昔の幼児に比べコミュニケーション能力や運動を行う機会が減ってきている。一方、最近の運動系の習い事の現状として、萩原(2002)らによれば、通わせている良い点について運動効果や健康効果、社会性などが挙げられている。そこで本研究ではいくつかの運動機能測定項目をもうけ、運動系の習い事をしている幼児、していない幼児を個別に測定し、幼児の身体機能に運動系の習い事が与える影響について調査し、それと同時に習い事をしている幼児としていない幼児の現状についても調査することを目的とした。

2. 研究方法

(1)調査対象：滋賀県大津市にある A 幼稚園の園児 4 歳から 6 歳までの 19 名(うち男子 13 名、女子 6 名)とその保護者。

(2)調査・測定期間：①調査票配布 2011 年 11 月 28 日(月)～2011 年 12 月 2 日(金)

②運動機能測定 2011 年 11 月 30 日(水)

(3)調査方法：①留置法による質問調査(習い事に関するアンケート)②運動機能測定(俊敏性、動的バランス、静的バランスの 3 項目)

3. 結果及び考察

A 幼稚園の全体の人数が 19 名(男子 13 名、女子 6 名)に対して運動系の習い事を行っている幼児は 3 名であった。測定別に運動系の習い事をしている幼児としていない幼児をみた場合、行っている幼児が全体の測定項目の平均値よりもよい結果を残すことはできなかった。しかし測定項目別にみると、体操を習い事として行っている幼児が静的バランスの全体平均値 13.26 秒上回った。習い事を行っていない幼児に着目すると、普段、運動系の習い事を行って

いないにも関わらず、測定結果が良い幼児もいた。このことから幼児期の運動系の習いごとを測定項目別にみた場合、よい結果につながるが、全体を通してみると運動系の習いごとが身体機能に影響を及ぼしていなかった。また、アンケートの結果として、A 幼稚園の今後行ってみたい習い事としては、1 位がスイミングで 2 位がサッカー、3 位が音楽教室という結果になった。また行ってみたい習い事の理由としては、1 番多く挙げた理由が「体力づくり」、次に多く挙げた理由は「子どもの希望」であった。

4. まとめ

運動系の習い事を測定項目別に見ると、幼児の身体機能に影響している部分は多少あるが、習い事を行っている幼児と行っていない幼児に大差はみられなかった。このことから習い事が直接、身体機能に影響しているとは言えない。各測定項目内容をみた場合、差は生じるが習い事を行っているという理由で測定結果が平均値よりも良いという結果にはならない。A 幼稚園の習い事を行っている幼児は 19 人中 3 人という少数しか行っていない結果となった。しかし今後、習い事を行ってみたい考える幼児は多く、その中でもスイミングやサッカー人気が集まっている。その理由としては「体力づくり」や「子どもの希望」という回答が多かった。従って、習い事をしたいと考える幼児や親が多い中、交通の問題や親の配慮が必要な為、習い事に通う環境に適していないと考える。

5. 参考文献

森ら,幼児の運動能力における時代推移と発達促進のための実践的介入,平成 20～22 年度文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書,1-109,2011

